

消シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條 少年ニ對スル刑事事件ニ付テハ第十九條ノ調査ヲ爲スベシ

少年ノ身上ニ關スル事項ノ調査ハ少年保護司ニ囑託シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十一條 裁判所ハ公判期日前前條ノ調査ヲ爲シ又ハ受命判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十二條 少年ノ被告人ハ他ノ被告人ト分離シ其ノ接觸ヲ避ケシムベシ

第五十三條 少年ニ對スル被告事件ハ他ノ被告事件ト牽連スル場合ト雖モ審理ニ妨ナキ限リ其手續ヲ分離スベシ

第五十四條 裁判所ハ事情ニ依リ公判中一時少年ノ被告人ヲ退廷ヤシ

ムルコトヲ得

第五十五條 第一審裁判所又ハ控訴裁判所審理ノ結果ニ因リ被告人ニ

對シ第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト認メタルトキハ少年審判所ニ送致スル旨ノ決定ヲ爲スベシ

檢察ハ前項ノ決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 第三十一條、第三十二條第二項第三項及第三十三條ノ規

定ハ公判ノ手續ニ之ヲ準用ス

## 第六章 罰則

第五十七條 少年審判所ニ於テ調査ヤラレ若ハ其ノ審判ニ付ヤラレタル事項又ハ少年ニ對スル刑事事件ニ付調査ヤラレ、豫審ニ付ヤラレ若ハ公判ニ付ヤラレタル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載ス

ルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人、

其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作人及發行者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千

圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本令ハ昭和十七年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が続く）

附 則

理由

近時罪ヲ犯シ又ハ罪ヲ犯ス虞アル少年ノ數逐年増加ノ傾向ニ在リ殊ニ朝鮮ノ現状ニ鑑ミ此等犯罪少年及虞犯少年ヲ保護、矯正、善導シテ健全有爲ノ國民ト爲スハ人的資源ノ增強確保上又社會防衛上緊要ナルヲ以テ<sup>此等</sup>少年ニ對スル刑事手續及刑事處分ニ關スル特別竝ニ保護處分ノ制度ヲ設ケルノ必要アルニ依ル

朝鮮少年法令

比

較

對

照

法律ニ適用スルハ少年ト稱スルハ  
法中ノ懲戒處分ハ朝鮮少年令ニ於テ之ヲ改メ又ハ削除シ  
タル處所ニシテ朝鮮少年令中ノ懲戒處分ハ少年法ヲ改メ  
又ハ新ニ設ケタル處所トス

### 少年法

#### 第一章 通則

第一條 本法ニ於テ少年ト稱スルハ

十八歳ニ滿タサル者ヲ謂フ

第二條 少年ノ刑事處分ニ關スル事

項ハ本法ニ定ムルモノノ外一級ノ

例ニ依ル

第三條 本法ハ第七條ノ第八條ノ第

十條乃至第十四條ノ規定ヲ除クノ

外國軍刑法第八條ノ第九條及海軍

刑法第八條ノ第九條ニ適用スル者

### 朝鮮少年令

#### 第一章 通則

第一條 本令ニ於テ少年ト稱スルハ

二十歳ニ滿タサル者ヲ謂フ

第二條 少年ノ刑事處分及刑事手續

ニ關スル事項ハ本令ニ定ムルモノ

ノ外一級ノ例ニ依ル

第三條 治安維持法ノ罪ヲ犯シタル

者並ニ國軍刑法第八條ノ第九條及

海軍刑法第八條ノ第九條ニ適用スル

者ニハ本令中深謀處分ニ關スル

二之ヲ適用セス  
 第二章、保護處分  
 刑罰法令ニ觸ルル行為ヲ爲  
 シ又ハ刑罰法令ニ觸ルル行為ヲ爲  
 ス虞アル少年ニ對シテハ左ノ處分  
 ヲ爲スコトヲ得  
 一 訓誡ヲ加フルコト  
 二 學校長ノ訓誡ニ委スルコト  
 三 警面ヲ以テ改心ノ誓約ヲ爲  
 サシムルコト  
 四 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡  
 スコト  
 五 寺院、教會、保護團體又ハ  
 適當ナル者ニ委託スルコト  
 六 少年保護司ノ觀察ニ付スル

規定ヲ適用セス  
 第二章、保護處分  
 刑罰法令ニ觸ルル行為ヲ爲  
 シ又ハ刑罰法令ニ觸ルル行為ヲ爲  
 ス虞アル少年ニ對シテハ左ノ處分  
 ヲ爲スコトヲ得  
 一 保護者ニ引渡スコト  
 二 寺院、教會、保護團體又ハ  
 適當ナル者ニ委託スルコト  
 三 朝鮮、管府少年福利所少年

コト

七 感化院ニ送致スルコト

八 矯正院ニ送致スルコト

九 病院ニ送致又ハ委託スルコト

前項各號ノ處分ハ適宜併ヤテ之ヲ爲スコトヲ得

第五條 前條第一項第五號乃至第九號ノ處分ハ二十三歳ニ至ル迄其ノ

執行ヲ繼續シ又ハ其ノ執行ノ繼續中何時ニテモ之ヲ取消シ若ハ變更スルコトヲ得

第六條 少年ニシテ刑ノ執行猶未ノ言渡ヲ受ケ又ハ假出獄ヲ許サレタ

保護司ノ觀察ニ付スルコト

四 朝鮮總督府感化院ニ送致スルコト

五 朝鮮總督府矯正院ニ送致スルコト

六 病院ニ送致又ハ委託スルコト

前項各號ノ處分ハ適宜併ヤテ之ヲ爲スコトヲ得

第五條 前條第一項第二號乃至第六號ノ處分ハ二十五歳ニ至ル迄其ノ

執行ヲ繼續シ又ハ其ノ執行ノ繼續中何時ニテモ之ヲ取消シ若ハ變更スルコトヲ得

第六條 少年ニシテ刑ノ執行猶未ノ言渡ヲ受ケ又ハ假出獄ヲ許サレタ



ル者ハ猶獄又ハ假出獄ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス  
年保護司ノ觀察ニ於テ必要アルトキハ  
前項ノ者合ニ於テ必要アルトキハ  
第四條第一項第四號、第五號、第七號乃至第九號ノ處分ヲ爲スコト  
ヲ得  
前項ノ規定ニ依リ第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ執行ノ繼續中少年保護司ノ觀察ヲ停止ス

第三章 刑畢處分

第七條 罪ヲ犯ス時十六歳ニ滿タサル者ニハ死刑及無期刑ヲ科サズ死刑又ハ無期刑ヲ以テ處斷スベキトシ八十一年以上十五年以下ニ於テ急

ル者ハ猶獄又ハ假出獄ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス  
年保護司ノ觀察ニ於テ必要アルトキハ  
前項ノ者合ニ於テ必要アルトキハ  
第四條第一項第一號、第二號、第四號乃至第六號ノ處分ヲ爲スコト  
ヲ得  
前項ノ規定ニ依リ第四條第一項第四號又ハ第五號ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ執行ノ繼續中少年保護司ノ觀察ヲ停止ス

第三章 刑畢處分

第七條 罪ヲ犯ス時十六歳ニ滿タサル者ニハ死刑及無期刑ヲ科サズ死刑又ハ無期刑ヲ以テ處斷スベキトシ八十一年以上十五年以下ニ於テ急

役又ハ禁錮ヲ科ス

刑法第七十三條、第七十五條又ハ

第二日條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ前

項ノ規定ヲ適用セス

第八條、少年ニ對シ長期三年以上ノ  
有期ノ禁錮又ハ禁錮ヲ以テ處斷ス  
ヘキトキハ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ

短期ト長期トヲ定メ之ヲ言渡ス但

シ短期五年ヲ超ユル刑ヲ以テ處斷

スベキトキハ短期ヲ五年ニ短縮ス

前項ノ規定ニ依リ言渡スヘキ刑ノ

短期ハ五年長期ハ十年ヲ超ユルコ

ト

ト

ト

役又ハ禁錮ヲ科ス

朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メ

タル刑法第七十三條、第七十五條、

第二日條又ハ朝鮮刑事令第三條ノ

規定ニ依リ準用スル刑法第七十五

條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ前項ノ規

定ヲ適用セス

第八條、少年ニ對シ長期三年以上ノ

有期ノ禁錮又ハ禁錮ヲ以テ處斷ス

ヘキトキハ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ

短期ト長期トヲ定メ之ヲ言渡ス但

シ短期五年ヲ超ユル刑ヲ以テ處斷

スベキトキハ短期ヲ五年ニ短縮ス

前項ノ規定ニ依リ言渡スヘキ刑ノ

短期ハ五年長期ハ十年ヲ超ユルコ

ト

トゾ得ス

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第九條 懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル少年ニ對シテハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄内ノ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ於テ其ノ刑ヲ執行ス

本人十八歳ニ達シタル後ト雖モ二十三歳ニ至ル迄ハ前項ノ規定ニ依リ執行ヲ繼續スルコトヲ得

第十條 少年ニシテ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ニハ左ノ期間ヲ經過シタル後假出獄ヲ許スコトヲ得

一 無期刑ニ付テハ七年

トゾ得ス

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スベキ場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第九條 懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル少年ニ對シテハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄内ノ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ於テ其ノ刑ヲ執行ス

本人二十歳ニ達シタル後ト雖モ二十五歳ニ至ル迄ハ前項ノ規定ニ依リ執行ヲ繼續スルコトヲ得

第十條 少年ニシテ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ニハ左ノ期間ヲ經過シタル後假出獄ヲ許スコトヲ得

一 無期刑ニ付テハ七年

二 第七條第一項ノ規定ニ依リ  
言渡シタル刑ニ付テハ三年

三 第八條第一項及第二項ノ規  
定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テ  
ハ其ノ刑ノ短期ノ三分ノ一

第十一條 少年ニシテ無期刑ノ言渡  
ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル  
後其ノ處分ヲ取消サルルコトナク  
シテ十年ヲ經過シタルトキハ刑ノ  
執行終リタルモノトス  
少年ニシテ第七條第一項又ハ第八  
條第一項及第二項ノ規定ニ依リ刑  
ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サ  
レタル後其處分ヲ取消サルルコト  
ナクシテ假出獄前ニ刑ノ執行ヲ爲

二 第七條第一項ノ規定ニ依リ  
言渡シタル刑ニ付テハ三年

三 第八條第一項及第二項ノ規  
定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テ  
ハ其ノ刑ノ短期ノ三分ノ一

第十一條 少年ニシテ無期刑ノ言渡  
ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル  
後其ノ處分ヲ取消サルルコトナク  
シテ十年ヲ經過シタルトキハ刑ノ  
執行終リタルモノトス  
少年ニシテ第七條第一項又ハ第八  
條第一項及第二項ノ規定ニ依リ刑  
ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サ  
レタル後其ノ處分ヲ取消サルルコ  
トナクシテ假出獄前ニ刑ノ執行ヲ

シタルト同一ノ期間ヲ経過シタル  
トキ亦前項ニ向シ

第十二條 少年ノ假出獄ニ關スル規

程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 少年ニ對シテハ勞役場留

置ノ言渡ヲ爲サス

第十四條 少年ノ時犯シタル罪ニ因

リ死刑又ハ無期刑ニ非サル刑ニ處

セラレタル者ニシテ其ノ執行ヲ終

ハ又ハ執行免除ヲ受ケタルモノハ

人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付

テハ將來ニ向テ刑ノ言渡ヲ受ケサ

リシモノト看做ス

少年ノ時犯シタル罪ニ付刑ニ處セ

ラレタル者ニシテ刑ノ執行留置ノ

爲シタルト同一ノ期間ヲ経過シタ  
ルトキ亦前項ニ向ジ

第十二條 少年ノ假出獄ニ關スル規

程ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十三條 少年ニ對シテハ勞役場留

置ノ言渡ヲ爲サス

少年ノ時犯シタル罪ニ付刑ニ處セ  
ラレタル者ニシテ刑ノ執行留置ノ  
爲シタルト同一ノ期間ヲ経過シタ  
ルトキ亦前項ニ向ジ  
第十二條 少年ノ假出獄ニ關スル規  
程ハ朝鮮總督之ヲ定ム  
第十三條 少年ニ對シテハ勞役場留  
置ノ言渡ヲ爲サス

言渡ヲ受ケタルモ、ハ其ノ猶豫期  
間中刑ノ執行ヲ終ヘタルモノト看  
做シ前項ノ規定ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テ刑ノ執行猶塚ノ  
言渡ヲ取消サレタルトキハ八ノ資  
格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ其  
ノ取消サレタル時刑ノ言渡アリタ  
ルモノト看做ス

第四章 少年審判所ノ組織

第十五條 少年ニ對シ保護處分ヲ爲  
ス爲少年審判所ヲ置ク

第十六條 少年審判所ノ設立、廢止  
及管轄ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ  
之ヲ定ム

第十七條 少年審判所ハ司法大臣ノ

監督ニ屬ス

司法大臣ハ控訴院長及地方裁判所  
長ニ少年審判所ノ監督ヲ命スルコ  
トヲ得

第十八條 少年審判所ニ少年審判官、  
少年保護司及書記ヲ置ク

第十九條 少年審判官ハ單獨ニテ審  
判ヲ爲ス

第二十條 少年審判官ハ少年審判所  
ノ事務ヲ管理シ所部ノ職員ヲ監督  
ス

二十八以上ノ少年審判官ヲ置キタル  
少年審判所ニ於テハ上席者前項ノ  
規定ニ依ル職務ヲ行フ

第二十一條 少年審判官ハ判事ヲシ

テ之ヲ兼ホシムルコトヲ得

判事タル資格ヲ有スル少年審判官  
ハ判事ヲ兼ヌルコトヲ得

第二十二條 少年審判官審判ノ公平  
ニ付嫌疑ヲ生スヘキ事田アリト思  
料スルトキハ職務ノ執行ヲ避クヘ  
シ

第二十三條 少年保護司ハ少年審判  
官ヲ輔佐シテ審判ノ資料ヲ供シ  
警察新ヲ掌ル

少年保護司ハ少年ノ保護又ハ教育  
ニ經驗ヲ有スル者其ノ他適當ナル  
者ニ對シ司法大臣之ヲ囑託スルコ  
トヲ得

第二十四條 書記ハ上司ノ指揮ヲ承



ケ審判ニ關スル書類ノ調製ヲ掌リ

職務ニ從事ス

第二十五條 少年審判所及少年保護

司ハ其ノ職務ヲ行フニ付公務所又

ハ公務員ニ對シ囑託ヲ爲シ其ノ他

必要ナル補助ヲ求ムルコトヲ得

第五章 少年審判所ノ手續

第二十六條 大審院ノ特別權限ニ屬

スル罪ヲ犯シタル者ハ少年審判所

ノ審判ニ付セス

第二十七條 左ニ記載シタル者ハ裁

判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル

場合ヲ除クノ外少年審判所ノ審判

ニ付セス

一 死刑、無期又ハ短期三年以

第四章 少年審判所ノ手續

第十四條 高等法院ノ特別權限ニ屬

スル罪ヲ犯シタル者ハ少年審判所

ノ審判ニ付セス

第十五條 左ニ記載シタル者ハ裁

判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル場

合ヲ除クノ外少年審判所ノ審判ニ

付セス

一 死刑、無期又ハ短期三年以

上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ルヘキ

罪ヲ犯シタル者

二 十六歳以上ニシテ罪ヲ犯シ

タル者

第二十八條 刑事手續ニ依リ審理中

ノ者ハ少年審判所ノ審判ニ付セス

十四歳ニ滿タサル者ハ地方長官ヨ

リ送致受ケタル場合ヲ除ク外

少年審判所ノ審判ニ付セス

第二十九條 少年審判所ニ於テ保護

處分ヲ爲スヘキ少年アルコトヲ認

知シタル者ハ之ヲ少年審判所又ハ

其ノ職員ニ通告スヘシ

第三十條 通告ヲ爲スニハ其ノ事田

ヲ開示シ成ルヘク本人及其ノ保護

上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ルヘキ

罪ヲ犯シタル者

二 十六歳以上ニシテ罪ヲ犯シ

タル者

第七六條 刑事手續ニ依リ審理中ノ

者ハ少年審判所ノ審判ニ付セス

十四歳ニ滿タサル者ハ通知事ヨリ

送致受ケタル場合ヲ除ク外少

年審判所ノ審判ニ付セス

第七七條 少年審判所ニ於テ保護處

分ヲ爲スヘキ少年アルコトヲ認知

シタル者ハ之ヲ少年審判所又ハ其

ノ職員ニ通告スベシ

第七八條 通告ヲ爲スニハ其ノ事田

ヲ開示シ成ルベク本人及其ノ保護

者ノ氏名、住所、年齢、職業、性  
行等ヲ甲立テ且参考ト爲ルヘキ資  
料ヲ差出スヘシ  
通告ハ警面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲  
スコトヲ得口頭ノ通告アリタル場  
合ニ於テハ少年審判所ノ職員其ノ  
甲立ヲ録取スヘシ  
第三十一條 少年審判所審判ニ付ス  
ヘキ少年アリト思料シタルトキハ  
事件ノ關係及本人ノ性行、境遇、経  
歴、心身ノ状況、教育ノ程度等  
ヲ調査スヘシ  
心身ノ状況ニ付テハ成ルヘク醫師  
ヲシテ診察ヲ爲サシムヘシ  
第三十二條 少年審判所ハ少年保護

者ノ氏名、住所、年齢、職業、性  
行等ヲ甲立テ且参考ト爲ルベキ資  
料ヲ差出スヘシ  
通告ハ警面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲  
スコトヲ得口頭ノ通告アリタル場  
合ニ於テハ少年審判所ノ職員其ノ  
甲立ヲ録取スヘシ  
第三十九條 少年審判所審判ニ付スベ  
キ少年アリト思料シタルトキハ事  
件ノ關係及本人ノ性行、境遇、経  
歴、心身ノ状況、教育ノ程度等ヲ  
調査スベシ  
心身ノ状況ニ付テハ成ルベク醫師  
ヲシテ診察ヲ爲サシムベシ  
第二十條 少年審判所ハ少年保護司

司ニ命シテ必要ナル調査ヲ爲サシムヘシ

第三十三條 少年審判所ハ事實ノ取

調ヲ保護者ニ命シ又ハ之ヲ保護團

體ニ委託スルコトヲ得

保護者及保護團體ハ參考ト爲ルヘ

キ資料ヲ差出スコトヲ得

第三十四條 少年審判所ハ參考人ニ

出頭ヲ命シ調査ノ爲必要ナル事實

ノ供述又ハ鑑定ヲ爲サシムルコト

ヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルト

キハ供述又ハ鑑定ノ要領ヲ錄取ス

ヘシ

第三十五條 參考人ハ命令ノ定ムル

ニ命ジテ必要ナル調査ヲ爲サシム

第二十一條 少年審判所ハ事實ノ取

調ヲ保護者ニ命ジ又ハ之ヲ保護團

體ニ委託スルコトヲ得

保護者及保護團體ハ參考ト爲ルベ

キ資料ヲ差出スコトヲ得

第二十二條 少年審判所ハ參考人ニ

出頭ヲ命シ調査ノ爲必要ナル事實

ノ供述又ハ鑑定ヲ爲サシムルコト

ヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルト

キハ供述又ハ鑑定ノ要領ヲ錄取ス

ベシ

第二十三條 參考人ハ朝鮮總督ノ定

所ニ依リ費用ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 少年審判所ハ必要ニ依

リ何時ニテモ少年保護司ヲシテ本

人ヲ同行セシムルコトヲ得

第二十五條 少年審判所及少年保護

司ハ其職務ヲ行フニ付公達所又

ハ公達員ニ對シ賜託ヲ爲シ其ノ他

必要ナル補助ヲ求ムルコトヲ得

第二十六條 少年審判所ハ事情ニ從

ヒ本人ニ對シ假ニ左ノ處分ヲ爲ス

コトヲ得

一 保護者ニ預クルコト

二 寺院、敎會、保護團體又ハ

...

ムル所ニ依リ費用ヲ請求スルコト

第二十四條 少年審判所ハ必要ニ依

リ何時ニテモ少年保護司ヲシテ本

人ヲ同行セシムルコトヲ得

第二十五條 少年審判所及少年保護

司ハ其職務ヲ行フニ付公達所又

ハ公達員ニ對シ賜託ヲ爲シ其ノ他

必要ナル補助ヲ求ムルコトヲ得

第二十六條 少年審判所ハ事情ニ從

ヒ本人ニ對シ假ニ左ノ處分ヲ爲ス

コトヲ得

一 保護者ニ預クルコト

二 寺院、敎會、保護團體又ハ

...

適當ナル者ニ委託スルコト

三 病院ニ委託スルコト

四 少年保護司ノ觀察ニ付スルコト

已ムコトヲ待サル場合ニ於テハ本人ヲ假ニ感化院又ハ矯正院ニ委託スルコトヲ俾

第一項第一號乃至第三號ノ處分アリタルトキハ本人ヲ少年保護司ノ

觀察ニ付ス

第三十八條 前條ノ處分ハ何時ニテ

モ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ

俾

第三十九條 前二條ノ場合ニ於テハ

適當ナル者ニ委託スルコト

三 少年保護司ノ觀察ニ付スル

コト

四 感化院ニ委託スルコト

五 矯正院ニ委託スルコト

六 病院ニ委託スルコト

前項第一號、第二號及第六號ノ處分アリタルトキハ本人ヲ少年保護司ノ觀察ニ付ス

第二十七條 前條ノ處分ハ何時ニテ

モ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ

俾

第二十八條 第二十四條、第二十六

速ニ其ノ旨ヲ保護者ニ通知スヘシ

第四十條 少年審判所調査ノ結果ニ

因リ審判ヲ開始スヘキモノト思科  
シタルトキハ審判期日ヲ定ムハシ

第四十一條 審判ヲ開始ヤサル場合

ニ於テハ第三十七條ノ處分ハ之ヲ  
取消スヘシ

第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ  
之ヲ準用ス

第四十二條 少年審判所審判ヲ開始  
スル場合ニ於テ必要アルトキハ本  
人ノ爲附添人ヲ附スルコトヲ得

條又ハ前條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲

シタル場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ  
保護者ニ通知スベシ

第二十九條 少年審判所調査ノ結果

ニ因リ審判ヲ開始スベキモノト思  
料シタルトキハ審判期日ヲ定ムベ  
シ

第三十條 審判ヲ開始ヤサル場合ニ

於テハ第二十六條ノ處分ハ之ヲ取  
消スベシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ  
之ヲ準用ス

第三十一條 少年審判所審判ヲ開始  
スル場合ニ於テ必要アルトキハ本  
人ノ爲附添人ヲ附スルコトヲ得

本人、保護者又ハ保護團體ハ少年  
審判所ノ許可ヲ受ケ附添人ヲ選任  
スルコトヲ得

附添人ハ辯護士、保護事業ニ従事  
スル者又ハ少年審判所ノ許可ヲ受  
ケタル者ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第三十三條 審判期日ニハ少年審判

官及書記出席スヘシ

少年保護司ハ審判期日ニ出席スル

コトヲ得

審判期日ニハ本人、保護者及附添

人ヲ呼出スヘシ但シ實益ナシト認

ムルトキハ保護者ハ之ヲ呼出ササ

ルコトヲ得

本人、保護者又ハ保護團體ハ少年  
審判所ノ許可ヲ受ケ附添人ヲ選任  
スルコトヲ得

附添人ハ保護事業ニ従事スル者又  
ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケタル者  
ヲ以テ之ニ充ツベシ

第三十二條 審判期日ニハ朝鮮總督府

少年審判官及朝鮮總督府少年審判

所書記出席スヘシ

少年保護司ハ審判期日ニ出席スル

コトヲ得

審判期日ニハ本人、保護者及附添

人ヲ呼出スヘシ但シ實益ナシト認

ムルトキハ保護者ハ之ヲ呼出ササ

ルコトヲ得



第四十四條 少年保護司、保護者及

附添人ハ審判ノ席ニ於テ意見ヲ陳

述スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人ヲ退席セ

シムヘシ但シ相當ノ事田アルトキ

ハ本人ヲ在席セシムルコトヲ得

第四十五條 審判ハ之ヲ公行セズ但

シ少年審判所ハ本人ノ親族、保護

事業ニ從事スル者其ノ他相當ト認

ムル者ニ在席ヲ許スコトヲ得

第四十六條 少年審判所審理ヲ終ヘ

タルトキハ第四十七條乃至第五十

四條ノ規定ニ依リ終結處分ヲ爲ス

ヘシ

第四十七條 刑事訴訟ノ必要アリト

第三十三條 少年保護司、保護者及

附添人ハ審判ノ席ニ於テ意見ヲ陳

述スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人ヲ退席セ

シムベシ但シ相當ノ事田アルトキ

ハ本人ヲ在席セシムルコトヲ得

第三十四條 審判ハ之ヲ公行セズ但

シ少年審判所ハ本人ノ親族、保護

事業ニ從事スル者其ノ他相當ト認

ムル者ニ在席ヲ許スコトヲ得

第三十五條 少年審判所審理ヲ終ヘ

タルトキハ第三十六條乃至第四十

一條ノ規定ニ依リ終結處分ヲ爲ス

ベシ

第三十六條 刑事訴訟ノ必要アリト

第四十八條 訓誡ヲ加フヘキモノト

認メタルトキハ事件ヲ管轄裁判所  
ノ檢察ニ送致スヘシ  
裁判所又ハ檢察ヨリ送致ヲ受ケタ  
ル事件ニ付新ナル事實ノ發見ニ因  
リ刑事訴訟ノ必要アリト認メタル  
トキハ官廳裁判所ノ檢察ノ意見ヲ  
聽キ前項ノ手續ヲ爲スヘシ  
前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタ  
ルトキハ其ノ旨ヲ本人及保護者ニ  
通知スヘシ  
檢察ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ  
依リ送致ヲ受ケタル事件ニ付爲シ  
タル處分ヲ少年審判所ニ通知スヘ  
シ

認メタルトキハ事件ヲ管轄裁判所  
ノ檢察ニ送致スベシ  
裁判所又ハ檢察ヨリ送致ヲ受ケタ  
ル事件ニ付新ナル事實ノ發見ニ因  
リ刑事訴訟ノ必要アリト認メタル  
トキハ官廳裁判所ノ檢察ノ意見ヲ  
聽キ前項ノ手續ヲ爲スベシ  
前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタ  
ルトキハ其ノ旨ヲ本人及保護者ニ  
通知スベシ  
檢察ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ  
依リ送致ヲ受ケタル事件ニ付爲シ  
タル處分ヲ少年審判所ニ通知スベ  
シ

認メタルトキハ本人ニ對シ其ノ非  
行ヲ指摘シ將來遵守スヘキ事項ヲ  
諭旨スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護

者及附添人ヲシテ立會ハシムヘシ

第四十九條 學校長ノ訓誡ニ安スヘ

キモノト認メタルトキハ學校長ニ

對シ必要ナル事項ヲ指示シ本人ニ

訓誡ヲ加フヘキ旨ヲ告知スヘシ

第五十條 改心ノ誓約ヲ爲サシムヘ

キモノト認メタルトキハ本人ヲシ

テ誓約書ヲ差出サシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護

者ヲシテ立會ハシメ且誓約書ニ連

結セシムヘシ

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including phrases like "訓誡", "誓約", and "保護".)

第五十一條 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スハキモノト認メタルトキハ保護者ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル條件ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十二條 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スヘキモノト認メタルトキハ委託ヲ受クハキ者ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルハキ事項ヲ指示シ保護監督ノ任務ヲ委囑スヘシ

第五十三條 少年保護司ノ觀察ニ付スヘキモノト認メタルトキハ少年保護司ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル事項ヲ指示シ觀察ニ付ス

第三十七條 保護者ニ引渡スベキモノト認メタルトキハ保護者ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル事項ヲ指示シ本人ヲ引渡スベシ

第三十八條 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スベキモノト認メタルトキハ委託ヲ受クベキ者ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルベキ事項ヲ指示シ保護監督ノ任務ヲ委囑スベシ

第三十九條 少年保護司ノ觀察ニ付スベキモノト認メタルトキハ少年保護司ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル事項ヲ指示シ觀察ニ付ス

へし

第五十四條 感化院、矯正院又ハ酒

院ニ送致又ハ安託スベキモノト認

メタルトキハ其ノ長ニ對シ本人ノ

處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指

示シ本人ヲ引渡スベシ

第五十五條 刑罰法令ニ觸ルル行爲

ヲ爲ス虞アル少年ニ對シ前三條ノ

處分ヲ爲ス場合ニ於テ適當ナル親

権者、保見人、戶主其ノ他ノ保護

者アルトキハ其ノ承諾ヲ經ハシ

へし

第四十條 感化院、矯正院又ハ病院

ニ送致又ハ安託スベキモノト認

メタルトキハ其ノ長ニ對シ本人ノ處

遇ニ付參考ト爲ルベキ事項ヲ指

示シ本人ヲ引渡スベシ

第四十一條 第三十六條ノ場合ヲ除

クノ外保護處分ヲ爲スベキモノニ

非ズト認メタルトキハ其ノ旨ヲ本

人及保護者ニ通知スベシ

第五十六條 少年審判所ノ審判ニ付  
テハ始末書ヲ作リ審判ヲ經タル事  
件及終結處分ヲ明確ニシ其ノ他必  
要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ  
第五十七條 少年審判所第四十八條  
乃至第五十二條及第五十四條ノ規  
定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ保  
護者、學校長、受託者又ハ感化院、  
矯正院若ハ病院ノ長ニ對シ成績報  
告ヲ求ムルコトヲ得  
第五十八條 少年審判所第五十一條  
及第五十二條ノ規定ニ依ル處分ヲ  
爲シタルトキハ少年保護司ヲシテ  
其ノ成績ヲ觀察シ適當ナル指示ヲ  
爲サシムルコトヲ得

第四十二條 少年審判所ノ審判ニ付  
テハ始末書ヲ作リ審判ヲ經タル事  
件及終結處分ヲ明確ニシ其ノ他必  
要ト認メタル事項ヲ記載スベシ  
第四十三條 少年審判所第三十七條  
第三十八條及第四十條ノ規定ニ依  
ル處分ヲ爲シタルトキハ保護者、  
受託者又ハ感化院、矯正院若ハ病  
院ノ長ニ對シ成績報告ヲ求ムルコ  
トヲ得  
第四十四條 少年審判所第三十七條  
及第三十八條ノ規定ニ依ル處分ヲ  
爲シタルトキハ少年保護司ヲシテ  
其ノ成績ヲ觀察シ適當ナル指示ヲ  
爲サシムルコトヲ得

第五十九條 少年審判所第四十八條

乃至第五十四條ノ規定ニ依ル處方

ヲ為シタル後審判ヲ解タル事件第

二十六條又ハ第二十七條第一號ニ

記載シタルモノナルコトヲ發見シ

タルトキハ裁判所又ハ檢察官ヨリ送

致ラセケタル場合ト雖管轄裁判所

ノ檢察官ノ意見ヲ聽キ處分ヲ取付シ

事件ヲ檢察官ニ送致スヘシ

禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル

者ニ付第四條第一項第七號又ハ第

八號ノ處分ヲ處置スルニ適ヤサル

事情アリト認めタルトキ亦前項ニ

同シ

第六十條 少年審判所本人ヲ守院

第四十五條 少年審判所第三十七條

乃至第四十條ノ規定ニ依ル處分ヲ

為シタル後審判ヲ解タル事件第十

四條又ハ第十五條第一號ニ記載シ

タルモノナルコトヲ發見シタルト

キハ裁判所又ハ檢察官ヨリ送致ラセ

ケタル場合ト雖モ管轄裁判所ノ檢

察官ノ意見ヲ聽キ處分ヲ取付シ事件

ヲ檢察官ニ送致スヘシ

禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル

者ニ付第四條第一項第四號又ハ第

五號ノ處分ヲ處置スルニ適ヤサル

事情アリト認めタルトキ亦前項ニ

同シ

第四十六條 少年審判所本人ヲ守院

救會、保護團體若ハ適當ナル者ニ  
委託シ又ハ病院ニ送致若ハ委託シ  
タルトキハ委託又ハ送致ヲ受ケタ  
ル者ニ對シ之ニ因リ生シタル費用  
ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコトヲ  
得

第六十一條 第三十五條及前條ノ費  
用竝ニ矯正院ニ於テ生シタル費用ハ  
少年審判所ノ命令ニ依リ本人又ハ  
本人ヲ扶養スル義務アル者ヨリ全  
部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得  
前項費用ノ徵收ニ付テハ非訟事件  
手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

救會、保護團體若ハ適當ナル者ニ  
委託シ又ハ病院ニ送致若ハ委託シ  
タルトキハ委託又ハ送致ヲ受ケタ  
ル者ニ對シ之ニ因リ生シタル費用  
ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコトヲ  
得

第四十七條 第二十三條及前條ノ費  
用竝ニ矯正院ニ於テ生シタル費用  
ハ少年審判所ノ命令ニ依リ本人又  
本人ヲ扶養スル義務アル者ヨリ  
全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得  
前項費用ノ徵收ニ付テハ朝鮮民事  
令ニ於テ依ルコトヲ定メタル非訟  
事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準  
用ス



第六章 裁判所ノ刑事手續

第六十二條 檢察少年ニ對スル刑事

事件ニ付第四條ノ處分ヲ爲スヲ相

當ト思料シタルトキハ事件ヲ少年

審判所ニ送致スベシ

第六十三條 第四條ノ處分ヲ受ケタ

ル少年ニ對シテハ審判ヲ經タル事

件又ハ之ヨリ輕キ刑ニ該ルベキ事

件ニシテ處分前ニ犯シタルモノニ

付刑事訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但シ

第五十九條ノ規定ニ依リ處分ヲ取

消シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六十四條 少年ニ對スル刑事事件

ニ付テハ第三十一條ヲ調査ヲ爲ス

ベシ

第五章 刑事手續

第四十八條 檢察少年ニ對スル刑事

事件ニ付第四條ノ處分ヲ爲スヲ相

當ト思料シタルトキハ事件ヲ少年

審判所ニ送致スベシ

第四十九條 第四條ノ處分ヲ受ケタ

ル少年ニ對シテハ審判ヲ經タル事

件又ハ之ヨリ輕キ刑ニ該ルベキ事

件ニシテ處分前ニ犯シタルモノニ

付刑事訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但シ

第四十五條ノ規定ニ依リ處分ヲ取

消シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條 少年ニ對スル刑事事件ニ

付テハ第三十九條ヲ調査ヲ爲スベシ

ベシ

少年ノ身上ニ關スル事項ノ調査ハ  
少年保護司ニ囑託シテ之ヲ爲サシ  
ムルコトヲ得

第六十五條 裁判所ハ公判期日前前  
條ノ調査ヲ爲シ又ハ受命判事ヲシ  
テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十六條 裁判所又ハ檢察判事ハ  
職權ヲ以テ又ハ檢察ノ申立ニ因リ  
第三十七條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲  
スコトヲ得

第三十八條及第三十九條ノ規定ハ  
前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十七條 勾留狀ハ已ムコトヲ得  
サル場合ニ非サレハ少年ニ對シテ  
之ヲ發スルコトヲ得ス

少年ノ身上ニ關スル事項ノ調査ハ  
少年保護司ニ囑託シテ之ヲ爲サシ  
ムルコトヲ得

第五十一條 裁判所ハ公判期日前前  
條ノ調査ヲ爲シ又ハ受命判事ヲシ  
テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十六條 裁判所又ハ檢察判事ハ  
職權ヲ以テ又ハ檢察ノ申立ニ因リ  
第三十七條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲  
スコトヲ得

第三十八條及第三十九條ノ規定ハ  
前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十七條 勾留狀ハ已ムコトヲ得  
サル場合ニ非サレハ少年ニ對シテ  
之ヲ發スルコトヲ得ス

拘留監ニ於テハ特別ノ事田アル場  
合ヲ除クノ外少年ヲ獨居セシムヘ  
シ

第六十八條 少年ノ被告人ハ他ノ被  
告人ト分離シ其ノ接觸ヲ避ケシム

ヘシ

第六十九條 少年ニ對スル被告事件  
ハ他ノ被告事件ト牽連スル場合ト

雖モ審理ニ妨ナキ限り其ノ手續ヲ分  
離スヘシ

第七十條 裁判所ハ事情ニ依リ公判  
中一時少年ノ被告人ヲ退廷セシム

ルコトヲ得

第七十一條 第一審裁判所又ハ控訴  
裁判所審理ノ結果ニ因リ被告人ニ

第五十二條 少年ノ被告人ハ他ノ被  
告人ト分離シ其ノ接觸ヲ避ケシム

ベシ

第五十三條 少年ニ對スル被告事件  
ハ他ノ被告事件ト牽連スル場合ト

雖モ審理ニ妨ナキ限り其ノ手續ヲ  
分離スベシ

第五十四條 裁判所ハ事情ニ依リ公  
判中一時少年ノ被告人ヲ退廷セシ

ムルコトヲ得

第五十五條 第一審裁判所又ハ控訴  
裁判所審理ノ結果ニ因リ被告人ニ

對シ第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト  
認メタルトキハ少年審判所ニ送致  
スル旨ノ決定ヲ爲スヘシ  
檢察ハ前項ノ決定ニ對シ三日内ニ  
抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十二條 第六十六條ノ處分ハ事

件ヲ終局セシムル裁判ノ確定ニ依

リ其ノ効力ヲ失フ

第七十三條 第四十二條、第四十三

條第二項第三項及第四十四條ノ規

定ハ公判ノ手續ニ第六十條及第六

十一條ノ規定ハ豫審又ハ公判ノ手

續ニ之ヲ準用ス

第七章 罰則

第七十條 少年審判所ノ裁判ニ付

對シ第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト  
認メタルトキハ少年審判所ニ送致  
スル旨ノ決定ヲ爲スヘシ  
檢察ハ前項ノ決定ニ對シ即時抗告  
ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 第三十一條、第三十二

條第二項第三項及第三十三條ノ規

定ハ公判ノ手續ニ之ヲ準用ス

第六章 罰則

第五十七條 少年審判所ニ於テ調査

セラレタル事項又ハ少年ニ對スル  
刑事事件ニ付懲罰又ハ公判ニ付セ  
ラレタル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他  
ノ出版物ニ掲載スルコトヲ得ス  
前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新  
聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人、  
其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作  
者及發行者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千  
圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定  
ム（大正十一年勅令第四日八十七號  
ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行）

セラレ若ハ其ノ禁錮ニ付セラレタ  
ル事項又ハ少年ニ對スル刑事事件  
ニ付懲罰セラレ、懲罰ニ付セラレ  
若ハ公判ニ付セラレタル事項ハ之  
ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載ス  
ルコトヲ得ス  
前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新  
聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人、  
其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作  
者及發行者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千  
圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本令ハ昭和十七年二月一日ヨリ之ヲ  
施行ス

少年令  
少年令  
少年令  
少年令

共同說明書

一 明確少年令の一概ニ於テ少年ノ年齡ヲ二十歳未満迄引上ゲタル理由  
少年法ニ於テハ之ガ對象タル少年ノ年齡ヲ十八歳未満ト爲シタルキ  
内地ニ於ケル既往少年保護ノ眞績ニ徴スレバ石ヲ以テハ少年ニ對スル  
教化善導ノ十全ヲ期スル上ニ於テ仍遺憾ノ點點カフズ即チ一面ニ於テ  
ハ我國青少年ノ身心發育ノ状況ニ照レ一般のニ二十歳未満者ハ未ダ以  
テ社會生活上成熟シタル一單位ト爲スコトヲ得ズ刑罰適用上固ヨリ一  
般成年者ト同一ノ處遇ヲ爲スニ適ヤザルモノアルト共ニ社會的適合性  
ニ於テ缺グル所アル青少年ノ教化善導ニ際リ其ノ成果ノ完壁ヲ期ヤン  
ガ爲ニハ相當長期間ニ亘ル指導ヲ必要トスルノミナラズ殊ニ十八歳ヨ  
リ二十歳ニ至ル青春期ニ於ケル身心發育情操變化ノ特ニ重要ナルニ鑑  
ミ此ノ面ニ於ケル保護善導ノ重要性ハ社會生活上ノ經驗ニ徴シ極メテ

明瞭ナル所ニシテ他面再少年犯罪ノ情勢ニ照シ十八歳ヲ超ユル者ヲ原  
則的ニ保護教導ノ場外ニ放置スルハ安寧ナフズカテ少年ノ年齢ヲ二十  
歳迄ニ満シ二十歳ニ滿タザル者ハ總テ保護處カヨ加ヘ侍ベキモノト  
爲スニ非ザレバ少年教化ノ元壁ハ待テ却シ難キ所ナリ刑クスルコトニ  
依リテ初メテ我ガ國ニ於テ二十歳未滿者ヲ以テ未成年者トシ社會生活  
上ハ特別ノ處遇ヲ爲スベキモノトスル社會道念ニモ合致シ少年ニ對ス  
ル刑罰制度ハニ保護制度ヨシテ我ガ國情ニ副フモノトシムル所以ト  
認メタルニ依ル

一 明治少年令第二條中ニ「少年ノ刑事手續ニ關スル事項」ト加ヘタル理  
由ハ

二 少年法第二條ニ於テハ少年ノ刑事手續ニ關スル事項ニ對シテ本法



ニ定ムル者ノ外一般ノ例ニ成ルベキ旨規定シタルガ朝鮮少年令ニ於  
テハ少年ノ刑事處分ノ外刑事手續ニ關スル事項ニ付テモ各種ノ特別ヲ  
設ケ此等ノ事項ニ付テハ總テ同令ニ別段ノ規定ナキモハ一般ノ例ニ  
依ラシメムトヘルモノナルヲ以テ刑事手續ニ關スル事項ニ付テモ刑事  
處分ニ關スル少年法第二條ノ規定ト同旨ノ規定ヲ設ケ以テ右ノ趣旨ヲ明ニシ  
直クヲ相當ト認メタルニ依ル

朝鮮少年令第三條ニ於テ陸海軍刑法第八條、第九條ニ依ラザル者ニ對  
スル朝鮮少年令ノ適用ニ付少年法第三條ノ如キ包括的規定ヲ設ケズ新  
ニ陸海軍刑法第八條、第九條ニ依ラザル者及治女維持法ノ罪ヲ犯シタ  
ル者ニ付朝鮮少年令中保護處分ニ關スル規定ノミノ適用排除ニ關スル  
規定ヲ設ケタル由

少年法ハ其ノ第三條ニ於テ陸海軍刑法第八條、第九條ニ掲ゲタル者  
即チ陸海軍軍人及之ニ準スベキ陸海軍軍人等ノ身分ヲ有スル者ニ對シ  
テハ少年法中ハ死刑、無期刑ノ廢止ニ關スル同法第七條(四)不定期刑ニ  
關スル同法第八條(一)假出獄ニ關スル同法第十條乃至第十二條(一)勞役場  
留置ノ旨被排除ニ關スル同法第十三條(一)資格制限ノ緩和ニ關スル同法  
第十四條ノ各規定ヲ除ク餘斷ノ規定ハ全般的ニ之ガ適用ヲ排除スベキ  
旨ヲ規定シ以テ陸海軍軍人及軍屬ノ身分アル少年ニ對シテハ絕對的ニ  
少年法ニ依ル保護處分ヲ排除シ若シ被疑ル少年ニシテ刑罰法令ニ觸ルル  
行為ヲ爲シタル者ニハ保護處分ヲ考慮スルコトナク之ニ刑罰ヲ以テ臨  
ムベキモ其ノ處罰刑ニ付テハ少年法ノ規定ニ則リ特殊ノ場合ヲ除キ死  
刑無期刑ヲ併シテ不定期刑ヲ科シ罰金刑ヲ科スル場合ニ於テモ少年法

ノ定ムル所ニ從ヒ保刑會直ノ旨改ヲ爲サザルコトトスル外假出等ノ期  
間ニ付テモ少年法ノ特別ニ從フベキモノト爲シ向其ノ刑畢手續、刑ノ  
執行及假出獄中ノ監督ニ付テハ同レモ少年法ノ特別ニ依ルコトナク  
海軍軍法會議法及陸海軍監獄守人定ムル所ニ依ルベキコトト返ニ受刑  
人ノ省刑制度ニ付テハ一般ノ少年ノ場合ト同様少年法ノ規定ニ從  
ヒ之ヲ緩和スベキコトヲ明ニセリ如ク陸海軍軍人軍屬等ノ身分ヨ  
有スル少年ニ對シ少年法中刑罰及假出獄ニ關スル旨、監禁走ト人ノ答  
刑、假刑ニ關スル規定ハミテ同レノ保護處分、假出獄少年ノ監督刑畢  
手續及刑ノ執行ニ關スル規定ニ付テハ之ガ適用ヲ排除シタルハ斯ル旨  
分アル者ニ付テモ少年保護制度ノ精神ニ則リ同レノ措置ヲ講ズベ  
キハ當然ノコトト作フ此等ノ者ガ身分上軍ノ統制下ニ在ルニ關シ軍權條

軍權條

持ニ支事ナキ程度ニ之ヲ止メムトスル趣旨ニ由テタルモノニシテ右ノ  
法律ハ内閣ノ訓令ニ於テハ素行アリ之ヲ其ニスルキモノニ非ザルコトヲ言  
ハラシメテ然レ共少年法ハ法律ヲ以テ制定セラルルニシテ其ノ制定ノ内容  
ニハ監獄法及人里監獄法ノ身分アル少年ニ適用セラルル陸海軍軍法會  
議法及監獄法及監獄法ニ規定スルルノ妨ゲザルニ及シ明証少  
少年令ハ訓令ヲ以テ制定セラルルニシテ其ノ性質上石ノ陸海軍軍法會議法  
陸海軍監獄令ノ制定ニ違背スルルヲ待ザルノミナラス少年法ト明証少年  
令トハ規定ノ内容ニ於テ重複スルモノアルヲ以テ陸海軍軍人軍屬等ノ  
身分アル少年ニ關スル規定ニ付テモ少年法ト明証少年令トハ其ノ趣旨  
共ニスルモノアリ即ち明証少年令中(一)死刑、無期刑ノ廢止(二)不定刑  
刑ノ廢止(三)刑(四)勞役(五)留置(六)言(七)排除等ニ關スル規定ハ陸海軍

軍法會議法、陸海軍監獄令等ノ規定ト何等抵觸スル所ナキヲ以テ其ノ  
効力ハ當然ニ陸海軍軍人軍屬等ノ身分ヲ有スル少年ニ對シテ及ブベ  
ク(二)取出獄少年ノ監督ニ關スル規定ハ陸海軍監獄令第五十四條同五十  
五條海軍監獄令第五十四條同第五十五條ノ規定ニ關シテ陸海軍軍  
人軍屬等ノ身分ヲ有スル少年ニ及バザルベキハ專理ノ當然ニ屬シ(三)受  
刑後ノ少年ニ對スル人ノ貧病副救濟和ニ關シテハ勸諭少年令ニ於テ何  
等規定スル所ナキヲ以テ當然右處ノ要ナク(四)刑畢手續、刑ノ執行ニ關  
スル規定ハ陸海軍軍法會議法、陸海軍監獄令中ノ刑畢手續及刑ノ執行  
ニ關スル該規定ニ關シテヤフルヘキヲ以テ(二)ノ取出獄少年ノ監督ニ關ス  
ル規定ト同様に陸海軍軍人軍屬タル身分ヲ有スル者ニ及バザルベク(五)然  
レ共保護處分ニ關スル規定ハ陸海軍軍法會議法、陸海軍監獄令ノ規定

ト何等低胸スル所ナキヲ以テ陸海軍軍人軍屬タル身分ヲ有スル少年ニ  
對シ之ガ効力排除ニ關スル符號ノ指定ヲ設クルニ非ザレバ當然ニ陸海  
軍軍人軍屬タル身分ヲ有スル少年ニ對シテモ其ノ効力ヲ及ボスベキモ  
ノナリ以上ノ次第ナルヲ以テ朝鮮ノ少年保護制度ニ於テ陸海軍軍人軍  
屬ノ身分アル少年ニ付内地ニ於ケルト同様ノ取扱一人ノ管帶部隊隊和  
ニ關スルモノヲ除ク一ヲ爲サム爲ニハ單ニ此等ノ身分アル者ニ對シ保  
護處分ニ關スル規定ヲ適用セザル旨ヲ規定スレバ是リ此ノ意ニ關スル  
少年法第三條ノ如キ包攝的規定ヲ設クルノ要ナキモノト思料セラル  
次ニ治女維持法ノ罪ヲ犯シタル少年ノ保護ニ付テハ朝鮮忠愍犯保護  
院命令ノ規定スル所ニシテ從察同令ニ奉キ設直セラル朝鮮總督府  
保護院所ニ於テ之ガ保護ニ付シ來レル所ナルガ少年ニシテ治女維持

法ノ罪ヲ犯シタル者ノ保護ハ其ノ罪重ニ照シ一般ノ少年保護トハ其ノ  
等ニ異ニスル所アルベキヲ以テ内地ニ於テモ思慮犯保護法第十二  
條ニ於テ少年ニシテ治安維持法ノ罪ヲ犯シタル者ニハ少年法ノ保護屬  
分ニ歸スル規定ヲ適用セザル旨規定シ專ラ保護法ニ依ルベキコト  
ヲ明ニシタリ朝鮮ニ於テモ治安維持法ノ罪ヲ犯シタル少年ノ保護ニ付  
テハ朝鮮少年法ノ保護屬分ニ依ルコトナク從來ノ朝鮮思慮犯保護法  
宗令ニ依ルル相違ト認メ以上ノ理由ニ依リ朝鮮少年法ニ於テハ陸海軍  
軍人軍醫等ノ身分アル少年ニ對スル朝鮮少年法ノ適用ニ付少年法第三  
條ノ加キ包括的規定ヲ設ケズ此等ノ身分アル少年ト治安維持法ノ適用  
相違タル少年トニ付朝鮮少年法中保護屬分ニ歸スル規定ノ適用相違  
全ニ無スル規定ヲ設ケタリ

一 明後少年令第四條保護處分ノ種類ヲ少年ニシタル理由

少年ニシタル其ノ理由ニ於テ保護處分ノ種類ニ付一時酌量分トシテ(一)

訓誡ヲ加ヘ(二)暴行ノ訓練ニ委シ(三)養育ヲ以テ安心ノ養育ヲ爲サシメ

(四)養育ヲ囑シテ保護者ニ引度ス處分ヲ附ゲ(五)精神處分トシテ(五)精神、教

育、保護訓練又ハ養育ナル者ニ委託シ(六)少年保護司ノ觀察ニ付シ(七)感

化院ニ送致シ(八)矯正院ニ送致シ(九)病室ニ送致又ハ委託スル處分ヲ規定

セルモ訓誡少年令ニ於テハ右ノ甲(一)乃至(三)ノ一時處分ニシテ規定ス

設ケズ(二)ノ保護者引度處分ニ付テモ(三)ノ附スベキモノト爲サズ

此ノ少年令所定ノ一時處分(一)乃至(三)ハ少年ノ保護上好マシカラザル環

境ヘノ養育ニ於テ容シ而モ處分ノ保護ニ付テハ何等ノ考慮ヲモ

得ハレザルモノニシテ之ヲ行ニ保護處分トシテ規定スルモ并ハ其ニ名



目ニ止マリ實効ノ期スベキモノニ爲メテ葎キハ内地ニ於ケル少年保護ノ  
實績ニ徴シ明カナル意味ニ一或社會環境ノ缺陷著シク教育文化ノ程度  
低位ニ在ル朝鮮ニ於テ所ノ適一時的處分ノ効果ハ到底期スベクモ非ズ  
仍テ之ヲ排シ假令少年ノ不良性ノ程度低ク致テ總體處分ニ迄出ヅルノ  
要ナシト見料セララル者ニ付テモ尠クモ保護者ニ引渡シ爾後少年保  
護司ヲシテ其ノ成績ヲ觀察シ之ガ保護指導上適當ナル指示ヲ爲サシメ  
以テ其ノ矯正ナル改過導善ヲ期スベク若シ保護者無ク或ハ保護者アル  
モ不良性ノ程度比較的高キモノニ付テハ寧ろ總體處分ニ出テ當初ヨリ  
凜然タル矯正方法ヲ講ズルヲ以テ朝鮮ニ於ケル少年保護制度ノ目的ニ  
副フ所以下認メ朝鮮少年令ニ於テハ特ニ右三種ノ一時處分ヲ規定セズ  
更ニ保護者引渡處分ハ一時處分ナルヲ以テ條件ヲ附シテ右處分ノ効力

ヲ之ニ較テラシムルニ由ナク若シ保護者引渡應分當時少年ノ保護監督上

ヲ慮ラズル事アラバ之ヲ保護者ニ對シ指示スレバ足ルモノト認メ

朝鮮少年令ニ於テハ保護者引渡ノ保護應分ニ何條件ヲ附スベキモノト

認メザス

一、朝鮮少年令第五條ノ三條ヲ二十五歳迄引上げタル理由

少年法ハ其ノ第五條ニ於テ保護應分ハ之ヲ二十三歳ニ至ル迄其ノ執

行ヲ繼續シテベキ旨規定シタレドモ朝鮮少年令ハ少年ノ年齡ヲ少年法

ノ六ヨリ二ヶ年延長シテ二十歳未満トナシタルヲ以テ保護應分ヲ繼續

シ得ル限所モ少年法ノ六ニ比シ二ヶ年延長シ二十五歳ト爲スラ相當ト

認メタルニ依ル

一、少年令ニ對シ死刑ヲ科シ得ベキ犯罪中ニ朝鮮王族ニ對スル危害罪ヲ加ヘ

無期刑

タル理由

少年法ニ於テ少年ニ對シ死刑、無期刑ヲ科シ得ベキ犯罪トシテ規定シタルモノノ中刑法第七十五條ノ皇族ニ對スル危害罪中ニハ朝鮮王族ニ對スル危害罪ヲ含マズ然ルニ朝鮮王族ニ對スル危害罪ハ其ノ罪質皇族ニ對スル危害罪ニ準ズベキモノナリ仍テ朝鮮少年令ニ於テモ朝鮮王族ニ對スル危害罪ハ皇族ニ對スル危害罪ト取扱ヲ同一ニスルノ要アルニ依ル

一、少年法第七十五條ニ相當スル少年ノ資格制限緩和ニ關スル規定ヲ朝鮮少年令中ニ設ケザル理由

八ノ資格制限ニ關スル事項ハ多ク勅令又ハ法律ノ規定スル所ニシテ

新ル資格制限ノ機知ニ關スル事項亦法律又ハ勅令等項ニ屬シ勅令タル  
明ニ少年令ヲ以テ規定スルモ新ル法律又ハ勅令ヲ以テ規定セラレタル  
資格制限ヲ排除スルノ効力ヲ有セス乃チ明ニ少年令中ニハ之ガ規定ヲ設

ケズ別個ニ法律ノ制定ニ俟ツコトトシタリ

一、少年審判所ノ組織權限ニ關スル規定ヲ朝鮮少年令中ニ設ケザル理由

少年審判所ノ組織權限ニ關スル規定ハ勅令等項ニ屬シ勅令タル朝鮮

少年令中ニ設ケザルハ妥當ナラザルヲ以テ別個ニ勅令ヲ以テ朝鮮總督府

少年審判所官制ヲ制定シ向官制中ニ之ヲ規定セントス

一、朝鮮少年令中ニ少年審判官ノ職務執行回避ニ關スル規定ヲ設ケザル理

由ニ

少年法ハ審判ノ公平ヲ期待スルニ於テモ司法裁判ニ於ケ

ル判決ヲ以テ斥逐シ得ルノ制置ヲ考慮スル要アリト爲シ其ノ第三十二  
條ニ於テ少年審判官審判ノ公平ニ何嫌疑ヲ生ズベキ事由アリト思料ス  
ルトキハ職務ノ執行ヲ遅クベキ旨規定シタリ然レドモ少年ニ對スル審  
判ハ司法裁判ト異リ本人ノ保護ヲ惟一最終ノ目的トシテ爲サルモ  
ノニシテ假令審判ノ結果懲罰ノ處分ヲ爲ス場合ト雖モ并ハ罪ヲ犯  
シタル者ニ何本來ノ手續タルヲ爲シテモ之ヲ爲セムトスルモノニ外ナラズ  
シテ特ニ本人ノ爲ニ利益ナル結果ヲ齎スモノト爲スヲ爲ス爾餘ノ處分  
ハ總テ本人ノ教化懲罰ヲ目的トスルモノニシテ結局ハ本人ノ利益ニ爲  
スベキモノナレバ審判ノ公平不公平ノ概念ハ之ヲ少年審判ニ容ルベキ  
餘地ナク從ツテ審判ノ公平期待ノ概念ヲ前提トスル國體ノ制置ハ少年  
審判ニ關スル限り其ノ意義ヲ失ヒ之ヲ規定スルノ要ナキモノト認メタ

ルニ依ル

一、朝鮮少年令第三十一條ニ於テ辯護士ヲ法定附添人適格者中ニ加ヘザル

理由

少年審判事件ニ於ケル附添人適格者ハ少年保護ニ對スル深キ理解ト  
經驗トヲ有スル者タルヲ要スル處保護事業ニ從事スル者以外ノ者ハ右  
ノ資格ニ缺グル所ナル場合アルベク此等ノ者ヲ附添人ニ選任セントス  
ル時ハ審判所ヲシテ其ノ人格觀見ヲ審查シ其ノ適否ヲ決セシムルヲ適  
當トス少年法ニ於テハ保護事業ニ從事スル者ノ外辯護士ヲモ法定附添  
人適格者中ニ加ヘタレドモ辯護士ハ一般ニ争訟ノ觀念強ク少年ノ保護  
ヲ目的トスル審判事件ノ附添人トシテ必ズシモ適當ナラザル場合鈔ナ  
カラザルヲ以テ辯護士ニ何テモ審判所ヲシテ其ノ附添人トシテノ適否

ラ扶セシムルヲ相富ト認メタルニ依ル  
一 朝鮮少年令ニ於テ少年審判所シテ  
ル理由

少年法ニ於テハ少年審判所ノ爲ス假處分ノ方法トシテ(一)條件ヲ附シ  
又ハ附セズシテ保護者ニ預クルコト(二)寺院、教堂、保護團體又ハ適當  
ナル者ニ委託スルコト(三)病院ニ委託スルコト(四)少年保護司ノ觀察ニ付  
スルコトヲ定メ尙已ムコトヲ設ケル場合ニ於テハ感化院、矯正院ニ委  
託スルコトヲ待ベキ旨規定セリ然レドモ少年審判所ノ爲ス假處分ハ審  
判開始ノ準備調査時代ニ於テ將來ノ保護處分ヲ豫想シ少年ノ保護目的  
達成ニ資スルガ爲ニ爲ス處分ナルヲ以テ其ノ具體的方法ハ敘上ノ目的  
ヲ達シ得ル限り特ニ本處分ノ方法ト異ニスルヲ要セザルベク之ガ運用

ニ際リテモ少年審判所ニ於テ少年ノ性質素行環境其ノ但一身の事情ヲ  
考慮シ之ニ相慮スル處分ヲ自由ニ選擇適用シ得ル機規定スルヲ相當ト  
シ得ニ矯正院感化院ニ委託スルニ付已ムコトヲ得ザル場合タルヲ要ス  
ルガ如キ制限規定ヲ設クルノ要ナキモノト認メタルニ依ル

少年法第四十八條(少年審判所ニ於テ訓誡ヲ加フベキモノト認メタル  
場合ノ手續規定)第四十九條(向上學校長ノ訓誡ニ委スベキモノト認  
メタル場合ノ手續規定)第五十條(改心ノ誓約ヲ爲サシムベキモノト  
認メタル場合ノ手續規定)ニ相寫スル規定ヲ設ケザル理由

少年令ニ於テハ保護處分トシテ(一)單ニ訓誡ヲ加ヘ(二)學校長ノ訓  
誡ニ委シ又ハ(三)改心ノ誓約ヲ爲サシムル等ノ所分ヲ規定セザルヲ以テ  
新種保護處分ニ關スル審判所ノ手續規定ハ之ヲ設クルノ要ナキニ依ル



一 刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス虞アル少年ニ對シ繼續的保護處分ヲ爲ス場合親權者、後見人戸主其ノ他ノ保護者ノ承諾ヲ要スル規定ヲ設ケザル理由

寺院、教會、米、麥園等ニ委託、病院、感化院、矯正院ニ送致又ハ委託ノ處分ノ如キハ少年ヲ從來ノ自由ナル生活環境ヨリ隔絶シ特ニ矯正院送致ニ至リテハ少年ノ自由ヲ拘束スルモノナルヲ以テ本人ノ一身上ハ勿論其ノ親權者其ノ他ノ保護者ノ保護監督權ニ及ボス影響尠ナカラザルモノアルベシト雖モ少年裁判所ノ爲ス保護處分ハ少年ノ保護ニ付特殊ノ智識ト經驗トヲ有スル裁判官ニ於テ少年ノ教化養育ヲ目的トシテ行フモノナルヲ以テ之ガ具體的方法ハ一ニ裁判官ノ判斷措置ニ委スルヲ相當トシ斯ル保護處分ノ執行ヲ保護者ノ同意ニ係ラシムルガ如キハ到底

少年保護制度ノ本旨ニ則テ所以ニ非ズ道般ノ理ハ犯罪少年ト處犯少年トニ於テ之ヲ異ニスベキモノニ非ズト思料セララルルヲ以テ處犯少年ニ對スル繼續保護處分ニ付テモ保護者ノ同意ヲ要セザルモノト爲シタリ

一 第四十一條ヲ新ニ設ケタル理由

少年法ニ於テハ審判ヲ開始シタル事件ニ付刑事訴訟ヲ爲スベキモノニ非ズ又保護處分ヲ爲スベキモノニモ非ザル場合ニ於ケル審判終結ノ方法ニ付何等規定スル所ナシ然レドモ審判ノ結果犯罪少年ニモ處犯少年ニモ非ザルコト判明スルガ如キコトナキラ保シ難キヲ以テ斯ル場合ニ於ケル審判終結ノ方法ニ付規定スルノ要アリ仍テ茲ニ本條ヲ設ケ斯ル場合ニ於ケル終結方法ヲ規定シタリ

一 裁判所豫審判事ノ假處分ニ關スル規定ヲ設ケザル理由

少年法ハ其ノ第六十六條ニ於テ裁判所及豫審判事ガ少年ニ對シ勾

留ニ代ル處分トシテ少年審判所ノ爲ス假處分ト同一ノ處分ヲ爲シ得

ベキコトヲ規定セリ然レドモ此等假處分ノ方法ヲ以テシテハ到底本

來ノ勾留ノ目的ハ達シ難キ處アルノミナラズ假ニ裁判所又ハ豫審判

事ノ爲ス假處分ニ付將來本人ニ對シ豫想セララル保護處分ノ前提ト

シテ少年審判所ノ爲ス假處分ト同一ノ意義ヲ認メムトスルモ元來少

年ニ對スル刑事事件ハ搜查機關タル檢事ニ於テ保護處分ニ付スルヲ

相當トスルモノト刑事處分ヲ必要トスルモノトヲ選擇シ不良性ノ程

度極メテ高キ者等已ムヲ得ザルモノト認ムルモノニ付テノミ起訴ノ

手續ヲ採ルベキヲ以テ豫審又ハ公判ニ繫屬シタル事件ニ付テハ審理

一

終結ニ至ル迄ハ保護處分ノ前提タルベキ假處分ノ制度ヲ活用スル  
 餘地ナキニ越カルベク仍テ朝鮮少年令ニ於テハ特ニ裁判所豫審判事  
 ノ假處分ノ制度ヲ設ケズ  
 勾留狀ノ發布ニ關スル制限規定及拘置監ニ於ケル少年獨居制ニ關ス  
 ル規定ヲ設ケザル理由  
 少年法ハ第六十六條ニ於テ裁判所又ハ豫審判事ノ勾留ニ代ルベキ  
 處分トシテ假處分ニ關スル規定ヲ設ケ次テ同法第六十七條ニ於テ勾  
 留狀ハ已ムコトヲ得ザル場合ニ非ザレバ少年ニ對シ之ヲ發スルコト  
 ヲ得ザル旨ノ規定ヲ置キ以テ少年ノ刑事事件ニ付身柄拘束ノ要アル  
 場合ニ於テモ少年保護ノ精神ニ鑑ミ假處分ノ方法ニ依ルヲ原則トシ  
 若シ之ガ活用ノ餘地ナク眞ニ已ムコトヲ得ザル場合ニ於テノミ勾留

狀ヲ發布スベキ旨規定シテ少年ノ身柄處置ニ關スル方針ヲ明ニセリ  
然レドモ朝鮮少年令ニ於テハ前記ノ如ク裁判所豫審判事ノ爲ス假處  
分ニ關スル規定ヲ設ケザルヲ以テ假處分ノ規定ノ存在ヲ前提トセル  
勾留狀ノ發布制限ニ關スル特別規定ハ其ノ要ナク少年ノ身柄拘束ノ  
爲勾留狀ヲ發布スル場合ニ於テハ朝鮮刑事令所定ノ制限ニ服スレバ  
足ルモノト認メ尙拘置監ニ於ケル獨居拘禁ノ制限ハ朝鮮監獄令施行  
規則ニ於テ刑事被告人ハ成ルベク之ヲ獨居拘禁スベキ旨ノ規定存ス  
ル所ナルヲ以テ之ガ活用ニ依リ目的ヲ達シ得ベキニ付勾留狀ノ發布  
ニ關スル制限下拘置監ニ於ケル處遇トニ付テハ特ニ規定ヲ設ケズ  
一 少年法第七十二條ノ假處分ノ効力ニ關スル規定ニ相當スル規定ヲ設  
ケザル理由ハ前記ノ如ク、

朝鮮少年令ニ於テハ裁判所又ハ審判事ノ假處分ノ規定ヲ設ケザルヲ以テ之ガ効力ニ關スル規定亦必要ナキニ依ル

一

朝鮮少年令第五十七條ニ於テ新聞紙其ノ他ノ出版物掲載禁止事項中ニ少年裁判所ニ於テ調査セラレタル事項又ハ少年ニ對スル刑事事件ニ付調査セラレタル事項ヲ加ヘタル理由

少年ニ關スル事項ニ付新聞紙其ノ他ノ出版物ニ之ガ掲載ヲ禁止スル目的ハ少年ノ模倣性ニ因ル非行ノ傳播ヲ防グト同時ニ本人ヲ保護シ社會上ニ於ケル品位ニ影響ナカラシムルコトヲ期スルニ在ルトコロ少年裁判所ノ審判ニ付セラレタル事項及少年ニ對スル刑事事件ニ付豫察又ハ公判ニ付セラレタル事項ノミニ付掲載ヲ禁止スルヲ以テハ未ダ以テ前記目的達成ノ完璧ハ期シ難ク尙少年審判事件ニ付テハ

審判開始前ニ於テ審判所ノ調査ニ係ル事項少年ニ對スル刑罰事件ニ  
付テハ起訴前ニ於テ捜査機關ノ捜査ニ係ル事項ヲモ新聞紙其ノ他ノ  
出版物ニ掲載スルヲ禁止スルノ要アルニ依ル

朝鮮少年令關係資料

一、少年令之制定  
 二、少年令之內容  
 三、少年令之實施  
 四、少年令之效果  
 五、少年令之檢討  
 六、少年令之展望  
 七、少年令之參考資料  
 八、少年令之附錄  
 九、少年令之索引  
 十、少年令之總論



既往十箇年間年齢別刑事有罪確定裁判人員表  
法務司刑事課

年度別	有罪確定 裁判人員	被 告 人 紀 時 年 齢										
		十六才 未滿	十八才 未滿	二十才 未滿	二十五才 未滿	三十才 未滿	三十五才 未滿	四十才 未滿	五十才 未滿	六十才 未滿	七十才 未滿	七十才 以上
昭和六年	九、九六	一七三	六七八	二四六	五八四	七三〇	七八三	八一七	二四三	九一三	四四〇	二九六
昭和七年	六、七五	一八一	八三八	三四六	六三〇	七五八	八〇七	八四九	三四九	八八六	四八七	一五九
昭和八年	六、三九八	二四〇	七二〇	三〇四	六六三	七九六	七八七	八三四	三〇六	九〇三	五三三	一五四
昭和九年	五、五〇	一八六	八〇四	一三九	六三九	七四九	六八九	七〇三	一〇四九	七〇六	三八三	二二八
昭和十年	五、四一三	二四三	七六五	一三七	六五四	七四二	六八九	七四三	二二九	六九三	五八六	八八九
昭和十一年	四、九九八	三三三	八二六	一四三	六三七	七六一	六八九	六八九	九七五	六一六	三〇七	七四九
昭和十二年	五、三三二	三三三	九五一	一三〇	六五〇	七七四	六四七	六八四	一〇七九	六三三	三〇八	七五九
昭和十三年	五、〇五一	二七五	八八六	一五九	六三四	七五三	六九七	六三四	一〇五六	六四七	三〇九	八六八
昭和十四年	四、七七七	二五〇	八七五	一三三	六〇五	七〇六	六四三	五八二	九四七	五九七	三六三	七二七
昭和十五年	五、三三七	三四〇	一〇八七	一三三	六四〇	八四八	八〇六	七三〇	二二五	六三三	三九四	六七〇

備考

一本表中二八罰金、科料刑ヲ含ム

二十歳未満者、犯罪状況ニ付テハ第三表参照ニ付

附表一

新入受刑者年齢別人員表

法務局刑事課

年 度	年 齡	未 十 六 歳	未 十 八 歳	未 二十 歳	未 二十 三 歳	未 二十 五 歳	未 三十 歳	未 四十 歳	未 五十 歳	未 六十 歳	未 七十 歳	計
昭 和 十四 年		二 三 八	一 一 九	七 一 二	一 四 五	一 九 八	二 五 九	三 〇 七	一 四 九	四 六 六	一 一 五	二 一 九
昭 和 十五 年		三 一 三	一 一 一	九 三 〇	一 六 三	二 一 九	二 九 一	三 四 七	一 六 三	四 九 一	一 一 二	二 三 八
		三 一 三	一 一 一	九 三 〇	一 六 三	二 一 九	二 九 一	三 四 七	一 六 三	四 九 一	一 一 二	二 三 八
		三 一 三	一 一 一	九 三 〇	一 六 三	二 一 九	二 九 一	三 四 七	一 六 三	四 九 一	一 一 二	二 三 八

備考 × 印 八再入(若ハ三入以上)受刑者ニシテ内数トス

附表二

十八歳未満新受刑者、入監年度数調 法務局刑事課

年 別 度 数 別	初 犯	再 犯	三 犯 以 上	計
昭 和 六年	五 二 〇	五 一	四	五 七 五
昭 和 七年	六 五 七	七 四	一	七 三 二
昭 和 八年	五 九 一	六 七	三	六 六 一

昭 和 十 五 年	昭 和 十 四 年	昭 和 十 三 年	昭 和 十 二 年	昭 和 十 一 年	昭 和 十 年	昭 和 九 年	年 別 度 數 別
一〇四七	七九五	七八一	八〇三	七〇八	六九二	六一四	初 犯
一〇六	八〇	七〇	七八	四六	五三	一〇四	再 犯
一	二	三	一	二	八	一	三 犯 以 上
一一五四	八七七	八五三	八八一	七五七	二五三	七一八	計

未成年者、犯罪調

(昭和十一年度)

罪名	處分												
	皇室對立罪	公務執行妨害	逃走	犯人藏匿	放火	失火	水利濫用罪	往來妨害	住居侵入	秘密侵入罪	阿片煙氣不潔罪	通貨偽造	文書偽造
起訴			二		二〇	三三		二	一				二
起訴猶豫					一四	五〇		三	四			一	八
刑事			一	一	六	六九		二	三	一	二	二	八
即決					一	三六		二	一		一		四
訓誡					二	一							
放免					三	一六		一	一				一
計					二八	一一三		四	二四	一	二	二	一三
計					一五	八九		五	二九		一	一	二
計					二八	二八二		一七	一一			二	一
合計	一	三	一	一	四一	四八四	一	二六	六四	一	三	五	二六

檢

專

警

察

計

計

法													刑			罪	
賄取誘拐	名譽毀損	脅迫	逮捕監禁	遺棄	過失傷害	傷害	殺人	禮拜所墳墓罪	賭博	猥褻姦淫	誣告	偽證	有價証券偽造	起訴	檢		
														十八歲以上未滿十八歲者	十八歲以上未滿十八歲者		
					六	五	二		八	一	一						
六	二		一	五	三	一	二	一	三	一			一				
二		二	二	三	五	二	三	二	九	二			一				
一	一	一	二	五	八	二	三	三	一		六	二	一				
					九	八	一					二		刑事	刑事		
									二					十八歲以上未滿十八歲者	十八歲以上未滿十八歲者		
						一			九	一							
						二			三								
						一			三								
					一	六	二		八					刑事	刑事		
二		二	二	三	一	三	二		五	一	一		一	十八歲	十八歲		
×	三	一	三	一	四	七	二	四	一	一	六	二	二	未滿	未滿		
					一	八	一	一	八	二	一	二		刑事	刑事		
九	三	三	五	一	六	一	六	七	八	二	八	四	三	合計	合計		

特 別 法					犯										
關稅法	警察犯刑罰則	森林令規	暴力行為處罰 二十八年件	治安維持法	計	毀棄	贓物 罪	橫領	恐喝	詐欺	強盜殺人	強盜傷人	強盜	竊盜	業務上 之 罪
九九	三	一五	一		九一五	三	七	一五		一一	一	一	五	七〇	一
八六		〇二	二	一八	一三三〇	三	二二	三三	八	四二	一	六	二二	六九八	一
	一	一八	九	三	三三六〇	二	五一	二〇二	五	一三〇			五	三五三	
一		八	三	九	二七八	六	五	二六六	一八	二〇五			三	一五五〇	二
		六三			一八六八	二	二一	二八	三	一八			四	一三六	
	四八	二四			二四九										
	二三四五	五三			九三六										
	一三六	四一八			七一			一五		三				四〇一	
	三三	二二			五五五			一		六				一九四	
	八	一〇二			四九四	一		六						三四六	
九九	六三二	六七五	一〇	三	五三三五	五	五八	二二二	五	一四五	一	一	一〇	三六三四	一
八七	二六八	三六六	一五	六七	五五〇九	九	七九	三一四	二六	二五三	一	六	二五	二四二	三
	八	一六五			二二六三	三	二一	三五	三	一八			四	一七三	
一八六	三四八	一〇六	二五	〇	一三〇〇六	二	一五八	五八一	三四	四一六	二	六	二九	二七〇	四

(11)

總計	犯			罪		處分
	計	其 他	煙 草 專 賣 令	海 稅 令 及	名	
二〇四	二九	一六	五四	未 滿 十 八 歲	起 訴	檢 事
一六九	四六	六四	九五	未 滿 十 八 歲	起 訴 猶 予	
三五四	一七四	四〇	三	未 滿 十 八 歲	未 成 年 不 起 訴	警 察
二九八	一九〇	三六	三	未 滿 十 八 歲	即 決	
一八五	八三	一九	一	未 滿 十 八 歲	訓 誡 放 免	計
四四〇	四五八	六五二		未 滿 十 八 歲	未 成 年 罪 上 不 起 訴	
八四八	七五四	五五一		未 滿 十 八 歲	未 滿 十 八 歲	計
二六四	一九三	一三二		未 滿 十 八 歲	未 滿 十 八 歲	
二二六	一三三	一一		未 滿 十 八 歲	未 成 年 罪 上 不 起 訴	計
六一	六五	四九	五	未 滿 十 八 歲	未 滿 十 八 歲	
二七九	六五	四九	五	未 滿 十 八 歲	未 滿 十 八 歲	計
二五四	九九	六六	九	未 滿 十 八 歲	未 滿 十 八 歲	
二四六	二〇四	三〇	一	未 滿 十 八 歲	未 成 年 罪 上 不 起 訴	計
二九〇	二六八	一〇八	一五六	未 滿 十 八 歲	未 成 年 罪 上 不 起 訴	





法	刑											名	處			
	略取折揭	脅迫	逮捕監禁	遺棄	墮胎	過失傷害	傷害	殺人	賄賂	禮拜所及墳墓罪	賭博			姦淫	猥褻淫	誣告
一		一	二		一四	六三	二二		一	六		二		未十八 未十八 未十八	起訴 起訴 起訴	檢 事
五			八		六六	一九	一九	一	二	三三	四	六		未十八 未十八 未十八		
二	二	二	二		一一	三三	二		六	一三		一	三	未十八 未十八 未十八		
五		二	四	一	一一	五五	二		一	一五	二	一	二	未十八 未十八 未十八		
			一		五	九	六			一				未十八 未十八 未十八		
						一				二六		一		未十八 未十八 未十八	即決	數言
						一四				九三八				未十八 未十八 未十八	訓誡 赦免	察
					一	九				二六一				未十八 未十八 未十八		
										三〇〇				未十八 未十八 未十八		
					一	一三								未十八 未十八 未十八		
三	二	三	四		二六	三九〇	二九		×	五〇六		四	三	未十八 未十八 未十八	計	
一〇		一〇	四	一	×八	×三五	二二	一	三	二八六	六	×	二	未十八 未十八 未十八		
				一	六	九二	六			一				未十八 未十八 未十八		
一三	二	一三	九	一	一〇	一三	五六	一	一〇	一七九	六	一	五	未十八 未十八 未十八	合計	

特別法犯				犯										
普通犯規	森林令規	暴力行為規	治安維持法	計	毀棄隱匿	贓物ノ罪	標領	恐喝	詐欺	強盜強姦	強盜傷人	強盜	竊盜	信用業務罪
	八五		二	一〇五八	一	四	一八	四	一四		三	六	八三二	
一	二〇〇	二	二八	一三六八	五	一七	四四	四	四三		六	三	七二一	一
三	一〇〇	八	五四	四三四	八	一〇	二〇三	×	一四二	一		一	三〇九	二
一	七六	九	一四三	三六八	二	八	二四	二	一九六			一	二五九	二
一	三五	六		一〇〇五	四	三	二四		一			一	一三五	
一六六〇	一〇			三三八										
三三九四	四六			九五四									二	
二五九	三〇		一	六三二			五		九				三三五	
四一三	一一			四六六			六		一				一六六	
一三	一三〇			四〇〇		三	一		二				三二〇	
一九二二	二二五	八	五	五九三	九	一	二二六	一	一六五	一	三	×	四三四九	二
二八〇九	三三四	一一	一	五四六	一	一〇	二七四	一五	二四〇		六	西	二四六八	三
一四	一六五	六		三〇五	四	三六	二五		一九			一	六九五	
四四七五	七三四	三五	二三八	一三五三	三〇	二〇	五二五	二六	四二四	一	九	三二	一三九二	五

總計	特別法犯				罪名	
	計	其他	煙草專賣法	酒稅令及 關稅法	起訴	檢
三九五	三三	三六	四九	六五	十八才 未滿	起訴
一七四	四七九	六三	一三八	四七	十八才 未滿	起訴
四二七	二四八	五六	四	三三	十八才 未滿	起訴
三〇三	二六五	三三	三		十八才 未滿	起訴
一七九	七四	三二			未起訴	起訴
四六五	四三九	三三			十八才 未滿	即決
八四六	七五三	五〇八			十八才 未滿	即決
二九三	三〇〇	二〇〇			十八才 未滿	訓誡
二五七	二〇五	一六二			十八才 未滿	訓誡
五六	一八六	四三			十八才 未滿	訓誡
三一四	七二八	四八二	五三	八	十八才 未滿	訓誡
五八三	一〇三	六八〇	一四二	四	十八才 未滿	訓誡
三三三	二六〇	五			十八才 未滿	訓誡
三三二	二七五	一〇七	一九五	三五	合計	合計

未成年者ノ犯罪調 (昭和十三年度)

刑 法												罪 名		犯 分
有価証券偽造	文書偽造	通貨偽造	阿片煙・阿片	住居侵入	往來妨害	失火	放火	騷擾	逃走	犯人藏匿	公務執行妨害	皇室三對ニ對スル罪	起訴	
	一	一		三	七	四三	一六				一	一	未滿十八歳	起訴
	一	二	一	六	四	四七	一〇					二	未滿十八歳	起訴
四	四	二	一	二二	一	七四	二				一		未滿十八歳	起訴猶豫
	三	一		二六		一五		一	一	一	一		未滿十八歳	起訴猶豫
	三	一		三	一五	一〇〇	一四						未滿十八歳	起訴猶豫
						四							未滿十八歳	即決
						二							未滿十八歳	即決
	二			一		一〇							未滿十八歳	訓戒放免
						一							未滿十八歳	訓戒放免
			一	一	二	七四	四						未滿十八歳	刑事
四	一七	三	一	二六	八	一三一	一八				二	一	未滿十八歳	計
四	三一	三		三二	四	六五	一〇	一	一	一	一	二	未滿十八歳	計
	三	一		四	一七	一七四	一八						未滿十八歳	計
八	五一	七	二	六二	一九	三七〇	四六	一	一	一	三	三	合計	合計

檢

事

警

察

計

刑 法 犯													罪 名	延 分	
脅 迫	墮 胎	逮 捕 監 禁	遺 棄	過 失 傷 害	傷 害	殺 人	賄 賂	禮 拜 所 及 墳 墓 損 壞 罪	賭 博	姦 通	猥 褻 姦 淫	誣 告			印 章 偽 造
一				二	六	三			二		五	一		村 八	起 訴
一				四	一	二		二	六	四	七	二		村 八	
		三	三	七	二	一		一	九		二		一	村 八	起 訴 猶 豫
三	三	三	二	五	四	一	二	四	四			二	一	村 八	
		一		八	五	五		三	五		一			未 成 年 不 起 訴	刑 事
				三	六				三					村 八	
									九					未 成 年 不 起 訴	警 決
									八					村 八	
					七				八		一			村 八	訓 戒 放 免
									九					村 八	
									六					未 成 年 不 起 訴	刑 事
一		三	三	三	三	三		一	六		八	一	一	未 成 年 不 起 訴	
四	三	三	二	六	五	一	六	六	三	四	七	四	一	未 成 年 不 起 訴	計
		一		六	五		三	一						未 成 年 不 起 訴	
五	三	七	五	一	六	一	二	一	四	一	五	二		合 計	

特	刑											
	名譽三開九罪	業三開九罪	竊盜	強盜	強盜傷人	強盜強姦	詐欺	恐喝	橫領	贓物三開九罪	毀棄	計
暴行行為等 罰二開九罪	一		六〇二	九		三	二一	一	九	一五	二	八七一
陸海軍十刑法			六三二	二	四	四	九	八	二二	四六	一	二二五
治安維持法			一八九九				二九	四	一七七	八一	九	二七四四
			一四七				二八〇	六	二一五	六七	八	二四九
			八四九				一一		二九	二一	六	一一三三
			二八				六		二			三六〇
												九九二
			三〇一				一	九	一	一		五三一
			一三四				一	八				四〇四
			二九一				五	六	三	三		三九九
兵	一	三八	二七三〇	九		三	一五七	五	一九七	九七	一一	四五〇六
一八	三	六七	二二〇三	二	四	四	二四〇	一四	二四五	二四	九	五〇〇〇
一		二	一四〇〇				一七		三五	二四	六	一五三三
三五	四	一〇七	六〇七三	一一	四	七	四一四	一九	四七七	二三五	二六	二一〇八





刑 法 犯													罪 名	起 分	
逮捕監禁	違 禁	贖 胎	遺失馬牛	傷 害	殺 人	賭 博	禮拜所及墳墓開挖罪	賭 博	女 姦	猥 褻 姦 淫	証 告	偽 證			印章偽造
			二	六	八			八		七				未滿十八歲	起 檢
一	二	一	六	一五	二八	一	一	三	三	六	一	三		未滿十八歲	訴 檢
		一	五	二七	二		二	八		一	二	一		未滿十八歲	起訴猶豫
二	二	一	三	四三	四		三	六	一			一	一	未滿十八歲	事
			三	六二	三		八	一						未滿十八歲	刑 事
			一	四				三六						未滿十八歲	即 決
								九七						未滿十八歲	警
			二	七			一	一六八						未滿十八歲	訓戒放免
								二〇						未滿十八歲	察
				六			一	四						未滿十八歲	刑 事
		一	三	三四二	〇		三	五三二		八	二	一		未滿十八歲	計
三	四	二	六八	五六八	三三	一	四	三三四	四	六	一	四	一	未滿十八歲	計
			三	六八	三		九	五						未滿十八歲	刑 事
三	四	三	九四	九七八	五五	一	一六	五七七一	四	一四	三	五	一		合計



特	犯											刑				
	陸海軍刑法	治安維持法	計	毀棄	贓物関罪	横領	恐喝	詐欺	強盜殺人	強盜傷人	強盜	窃盜	業務関罪	略取誘拐	名誉関罪	脅迫
			一一三三		一六	八	三	二八	一	一	六	八五				
四	二一		一一四二	一	二三	三四	五	五五	三	一	九	七二		四	二	二
	三		一一九〇		六七	二〇六	六	一一九			一	二二五九				一
一	一七		一二六〇	二	七二	一六九	三	一五三				一四七				三
			一三八〇	一	三五	二二	一	一六				二〇〇	三	二	一	三
			三〇									三五				一
			一〇七六									一〇二				
	二		五六		四	一六		三				三三〇				
			三九			三		一				一〇三				
			三九			三		七				三三五				
	五		五四三一		八七	二三〇	九	一五〇	一	一	七	三八二				二
五	三八		一四九九七	三	九五	二〇六	八	二〇九	三	一	一	三三三	三	六	三	五
			一五九九	一	三五	二五	一	二三				三三六				一
五	四三		二〇三七	四	二一六	四六一	一八	三八二	四	二	一八	七四〇	一	六	四	八

總計	犯法別						罪名		起訴	檢	事	警	察	計
	計	其他	酒稅令、煙草 弄賣令	関稅法	警察犯規則	森林令規	暴行行爲等 公罰三用法律	未滿						
二九〇	一六七	七七	一八	二	一	六九	未滿	未滿	起訴	檢	事	警	察	計
二六〇八	三六六	九八	五六	六	一	一八〇	未滿	未滿	起訴	檢	事	警	察	計
三四九五	一〇五	四四	五			四五	未滿	未滿	起訴	檢	事	警	察	計
二四五五	九五	三五				三九	未滿	未滿	起訴	檢	事	警	察	計
一三三八	四八	一七				三一	未滿	未滿	起訴	檢	事	警	察	計
四八〇九	四四九	二五七				一七	未滿	未滿	起訴	檢	事	警	察	計
七八三四	六七五	四五五				二八	未滿	未滿	起訴	檢	事	警	察	計
二八四六	三三〇	一九四				三一	未滿	未滿	起訴	檢	事	警	察	計
三〇三三	一七四	一五〇				六	未滿	未滿	起訴	檢	事	警	察	計
四三三二	一一三	二五				八	未滿	未滿	起訴	檢	事	警	察	計
二三四〇	七〇九	四六九	三三	二	一	一六二	未滿	未滿	起訴	檢	事	警	察	計
一三九〇	八九三	六九四	五六	六	一	二五三	未滿	未滿	起訴	檢	事	警	察	計
一七六〇	一六一	四二〇				二一八	未滿	未滿	起訴	檢	事	警	察	計
一三三〇	一六〇	九三	七九	八	一	五三三	未滿	未滿	起訴	檢	事	警	察	計
									合計					

二十六年、老、犯罪諸

(昭和十五年度)

罪名	刑法										起訴	起訴猶豫	刑事	即決	訓戒放免	刑事	計	
	証告	印章偽造	有價証券偽造	文書偽造	通貨偽造	住居侵入	往來妨害	水利三関志罪	放火	逃走								公務執行妨害
起訴	一		四	六	一	三	三	一	五	二			未十分					
起訴猶豫	六	一	三	六	一	八	五		五	一	二	一	未十分					
刑事	一		四	一		三	一		二				未十分					
即決				一		八			一				未十分					
訓戒放免													未十分					
刑事			一	一	一	六			九	八	二		未十分					
計	九	八	一六	一	三六	四	一	七五	二一				未十分					
計	六	一	三	六	一	一六	五	六五	一五	一	三	一	未十分					
計			一	一	一	六		二〇	一〇	二			未十分					
合計	一五	一	一二	三三	三	四八	九	二六〇	四六	三	四	二						

罪名		刑											法		紀		業務 三 案 罪		
起訴	檢	重婚	賭博	賭博 及 賭博 及 賭博	賄賂	殺人	傷害	過失 傷害	墮胎	遺棄	逮捕 並 禁	脅迫	略取 誘拐	起訴	檢	起訴		檢	
四	五		一〇	三五	一	二七	四〇	二二		二								一	
一			七	一七		二〇	二二	一七				一	二						二
			一三	一三		一	二七	二	一	二		三							二
			一	一		四	三二	六											
			二八	八四															
			一〇二	一四三			五												
			一	一		四													
五	五		三六	二〇	一	二七	二四	三八		二		一	二						
			二	二		一七	三二	七三		三		三	一						
			二	二		四	三六	六											
一〇	一		二四	四	三	四八	六七〇	二七	一	五	一	四	二						
合計			二四	四	三	四八	六七〇	二七	一	五	一	四	二						









刑罰法令ニ觸ルル虞アル少年調

區別	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	昭和十五年	計	一箇年平均
十六歳未満	二、五八二	三、九三九	五、一三八	四、五二四	四、八一二	二〇、九九五	四、一九九
十八歳未満	三、一二九	四、二五一	五、一六九	六、三一五	六、四七二	二五、三三六	五、〇六七
二十歳未満	三、七八九	四、五八六	五、二〇〇	八、八〇九	八、七〇四	三一、〇八八	六、二一七
刑事未成年者	一、二九二	二、〇四九	二、六一八	二、四三四	二、五五九	一〇、九五二	二、一九〇
計	一〇、七九二	一四、八二五	一八、一二五	二二、〇八二	二二、五四七	八八、三七一	一七、六七三

備考 本調査ハ全縣各警察署ノ第一線勤務者タル各警察官駐住所向派出所勤務警察官方各其ノ管内ノ不良少年少女中平素ノ視察ニ基

キ刑罰法令ニ觸ルル候アル者（例之平素ヨリ手癖悪シキモノ又  
ハ火<sup>燭</sup>燭<sup>燭</sup>リヲ爲シ放火癖ノアル者等）ヲ調査シ其ノ負數ヲ本署及  
各檢事局ヲ通シ當局ニ報告シ來リタルモノヲ集計シタルモノニ  
シテ最眞實ニ近ク信憑スベキ計數ナリ尙所謂不良少年少女ノ負  
數ヲ調査モバ恐ラク不計數ノ數倍ニ達スルモノト推セララル

参照

# 非訟事件手續法

明治三十一年六月  
法律第十四號

總理司法  
大臣副署

第二百八條 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ  
有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス  
過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ  
爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

司  
局

参照

陸軍刑法

明治四十一年四月  
法律第四十號

總理陸軍大臣副署

第八條 陸軍軍人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ謂フ

- 一 陸軍ノ現役ニ在ル者但シ未ダ入營セサル者及露休兵ヲ除ク
- 二 召集中ノ在郷軍人
- 三 召集ニ依ラス部隊ニ在リテ陸軍軍人ノ勤務ニ服スル在郷軍人
- 四 前二號ニ記載シタル者ノ外陸軍ノ制服著用中又ハ現ニ服役上ノ義務履行中ノ在郷軍人
- 五 志願ニ依リ國民軍隊ニ編入セラレ服務中ノ者

第九條 左ニ記載シタル者ハ陸軍軍人ニ準ス

- 一 陸軍所屬ノ學生、生徒
  - 二 陸軍軍屬
  - 三 陸軍ノ勤務ニ服スル海軍軍人
- 前項第一號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム



參照

# 海軍刑法

明治三十四年四月  
法律第四十八號

(總務海軍  
大臣副署)

第八條 海軍軍人ト稱スルハ海軍ノ高等武

官、候補生、准士官及下士卒ニシテ左ニ記載

セタル者ヲ謂フ

一 現役ニ在ル者但シ召集中ニ非サル歸休

兵ヲ除ク

二 豫備役、後備役ニ在リ召集中ノ者

三 前二號ニ記載シタル者ノ外海軍制服著

第九條 左ニ記載シタル者ハ海軍軍人ニ準

ス

一 海軍所屬ノ學生、生徒

二 海軍軍屬

三 海軍ノ勤務ニ服スル陸軍軍人

前項第一號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外ス

ヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

参照

# 刑法

明治四十年四月  
法律第二十號

(國務大臣  
副署)

## 第二編 罪

### 第一章 皇室ニ對スル罪

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス



參照

●朝鮮刑事令

明治四十五年三月十八日  
制令第十一號

第三條 刑法第七十五條、第七十六條及朝鮮總督府裁判所令第三條第三項ノ規定ハ王族ニ付之ヲ準用ス



制令第 號

朝鮮少年令

第一章 通則

第一條 本令ニ於テ少年ト稱スルハ二十歳ニ滿タザル者

第二條 少年ノ刑事處分及刑事手續ニ關スル事項ハ本令

ノ外一般ノ例ニ依ル

第三條 治安維持法ノ罪ヲ犯シタル者竝ニ陸軍刑法第八條、第九條及

海軍刑法第八條、第九條ニ掲ゲタル者ニハ本令中保護處分ニ關スル

規定ヲ適用セズ

第二章 保護處分

第四條 刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲シ又ハ刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲

ス處アル少年ニ對シテハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 保護者ニ引渡スコト

二 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト

三 朝鮮總督府少年審判所少年保護司ノ觀察ニ付スルコト

四 朝鮮總督府感化院ニ送致スルコト

五 朝鮮總督府矯正院ニ送致スルコト

六 病院ニ送致又ハ委託スルコト

前項各號ノ處分ハ適宜併セテ之ヲ爲スコトヲ得

第五條 前條第一項第二號乃至第六號ノ處分ハ二十五歳ニ至ル迄其ノ

執行ヲ繼續シ又ハ其ノ執行ノ繼續中何時ニテモ之ヲ取消シ若ハ變更  
スルコトヲ得

第六條 少年ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ又ハ假出獄ヲ許サレタ  
ル者ハ猶豫又ハ假出獄ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス

前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ第四條第一項第一號、第二號、第  
四號乃至第六號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ第四條第一項第四號又ハ第五號ノ處分ヲ爲シタル  
トキハ其ノ執行ノ繼續中少年保護司ノ觀察ヲ停止ス

### 第三章 刑事處分

第七條 罪ヲ犯ス時十六歳ニ滿タザル者ニハ死刑及無期刑ヲ科セズ死

刑又ハ無期刑ヲ以テ處斷スベキトキハ十年以上十五年以下ニ於テ懲  
役又ハ禁錮ヲ科ス

朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑法第七十三條、第七十五條  
（朝鮮刑事令第三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）又ハ第二百  
條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第八條 少年ニ對シ長期三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處斷ス  
ベキトキハ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ短期ト長期トヲ定メ之ヲ言渡ス但  
シ短期五年ヲ超ユル刑ヲ以テ處斷スベキトキハ短期ヲ五年ニ短縮ス  
前項ノ規定ニ依リ言渡スベキ刑ノ短期ハ五年長期ハ十年ヲ超ユルコ  
トヲ得ズ